

「マーケットの浅読み・深読み」

発行・編集:FXニュースレター

執筆担当:斎藤登美夫



◆◆◆ No.0156 ◆◆◆

11/12/28

【 2011 年の為替・金融業界 10 大ニュース 】

年末も押し迫ってくるなか、新聞紙上などでは「今年の 10 大ニュース」といった特集が相次いでいる。そこで年内最後となる今回の当レターでは昨年末にも実施した、筆者の独断と偏見で選出した今年一年の「為替・金融業界 10 大ニュース」を報じてみたい。読者の皆さんの考えるニュースは果たしてランキングしているだろうか。

◎個人的な 1 位は 6 年半ぶりの「財務省介入」

まずは筆者の考える「為替・金融業界 10 大ニュース」を以下ですべて列挙、そのあとで個別に簡単な解説を加えてみたい。

- 1; 福島第 1 原発事故
 - 2; 東日本大震災
 - 3; 欧州債務危機問題
 - 4; ドル/円が戦後最安値を更新
 - 5; 米国債が史上初の格下げ
 - 6; 日本の財務省が日時(月間)ベースで過去最大規模の市場介入実施、10 年ぶり協調介入も
 - 7; ウサマ・ビンラディン氏殺害
 - 8; 野田政権発足し増税路線が鮮明に、また TPP 交渉参加表明も
 - 9; 複数の大型台風が上陸、各地で記録的被害も
 - 10; FX取引のレバレッジ規制で 8 月から個人投資家は 25 倍に
- 番外; サッカーの日本女子、「なでしこジャパン」が世界一に

1と2は日本人であれば誰もが忘れられない出来事だろう。為替や金融といったカテゴリーを取っ払った世界的な経済、社会情勢としても大きなニュースであったと思う。その爪痕は 1 年近くが経過したいまなお残っている。早い復興が望まれるところだ。

そんな 1 や 2 と同様のものとして、9 が挙げられる。東日本大震災関連のニュースの陰に隠れてしまった感もあるが、今年 9 月には台風 12 号が四国から中国地方を縦断、また同 15 号は静岡への上陸が観測され多大な被害が出た。また、ランクインはしなかったがタイでやはり甚大な洪水被害が観測されているなど、今年は世界各地で天災的な要因を忘れることのできない一年だった。

純粋にマーケット的な要因だけに限定すれば、3 を外すわけにはいかないと思われる。昨年からの問題の萌芽を感じられただけでなく、実際に問題にもなっていたが、まさかここまで大問題に発展するとは思っていなかった。足もとを含めて、様々な打開策や再建策に関する報道もなされているが、その一方で先日有力欧米紙であるウォールストリート・ジャーナルのオンライン版が「ユーロ圏債務危機の深刻化にともない少なくとも 2 つの銀行でドラクマやエスクード、リラなど欧州の旧通貨での取引を処理できるバックアップシステムの導入に向けた措置を講じている」ーなどと報じるなど、まだまだ火種は拡大の様相すらうかがわせている。来年にかけても波乱要因として注意を要したい。

一方で 4、5、6 も後世に残るであろう重要なファクターだ。逆に言えば、それが 4-6 位にしか入らないところに、今年が如何に激動の一年であったかということの証左になろう。なお、ランキングを見てのとおり、一年を通してあまり好ましい、楽しいニュースがなかったこともあり、微妙なところでランク外だが敢えて「なでしこジャパン」も記述してみた。来年は期待を込めて「辰年らしい日経平均高」ーなど、ポジティブなニュースを数多く聞きたいものだと願う。

ー以上のほかにも様々な報道があったが、そんな一年も残り数日で終わろうとしている。今年も御愛読ありがとうございました。来年が皆さまにとって良い一年でありますように。(了)



当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の無断転載・転送もご遠慮ください。

なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。

